「将来に対する意味」

～　意味を見出していますか　～

詩４２:１～１１

はじめに

皆さんは普段の生活の中で、なぜ？といつも考えて色々なものを考えているでしょうか？例えば対人関係‥‥。自分にとって悪いことを相手がしてきた時、どうしてあの人は私にこんなことをしてくるんだろう。と考えて、あの人は～だから～なんだ。と相手に対して勝手な分析をして決めつけ、相手のせいにしてしまっていることはないでしょうか？多くの場合、自分を振り返ることがないのです。これはとても怖いことです。今日の詩篇の御言葉からダビデがどんな気持ちで、この詩をうたったのかそれに目を向けていきましょう。サウルはこの地上で２人目の王様でした。民が、神様に背き、目に見える王が欲しいと言い、容姿に優れ、見かけのいいサウルが王様として立てられました。しかし、サウル王は心に問題がありました。自分の部下が手柄を取ると劣等感にさいなまれる人でした。サウルはダビデを信頼しながらも戦いに勝利して帰ってくるダビデに嫉妬しました。ダビデは体は小さく、好ましい風貌もありませんでした。しかし、サムエル記にあるように“人はうわべを見るが、主は心を見る”とあるように神様はダビデの心をみていました。私たちにとって大事なことは外側ではありません。しかし、外側を着飾ることが最優先されます。内側を見せないようにします。しかしダビデは違いました。神に心を見て選ばれたから、自分の内側をみる決心をしました。だからサウルに命を狙われ国中から指名手配され、国家権力がいつもダビデを殺そうとしていても、ダビデは自分の心と向き合うことを諦めませんでした。　“鹿が谷川の流れを慕いあえぐように神よ私の魂はあなたを慕いあえぎます。”この御言葉のとおりダビデはいつも神を求めました。そして、命を狙われているときに神に祈り、自分に問いかけます。“私の魂よなぜお前はうなだれるのか”　自分の心が力を失っているときに､｢わからない｣で終わらせませんでした。｢わからない｣と発した瞬間に本当にわからなくなってしまいます。パスカルが言ったように、人間は考える葦です。しかし、私たちは考えることしなくなってしまいました。なぜ大学にいき､なぜ仕事し､儲ける必要があるのか､なぜ､トップになりたいか、なぜ、結婚したいのか、妻、夫をもちたいのか、子供が欲しいのか‥‥。悪者の働きがこの世にあるならば、考えさせない。これが彼らの働きです。しかし、私たちは違います。毎週教会にきて、自分の心と向き合わされます。ダビデは自分の心の状況を神様の前に分析しています。“あなたの大滝のとどろきに淵が淵を呼び起こし、あなたの波あなたの大波はみな私の上を超えていきました。”今自分に起きていることはどういうことなのか、ダビデはいつも人のせいにすることはありませんでした。幸せな時には主がしてくだっさたことを何ひとつ忘れるなと言い、そして、心の元気がなくなっているときにはお前はなぜうなだれているんだと、自分に問いかけ祈のりました。みなさんは如何でしょうか？何か問題があると、相手ばかりみて決めつけていないでしょうか？多くの場合、人のせいにし起きている状況をきちんと考えないようになります。しかし、私たちは神様から与えられた「考える」という能力があります。考えるということは生涯やらなければなりません。特にあなたの人生で、波が来たときそして、何も波がないときも物事を考えなければなりません。

世々にわたる祝福される法則④なぜ？の目線

みなさんはなぜの目線をもっていますか。広岡浅子というクリスチャン。NHK 朝の連ドラの主人公です。YWCA や、生命保険会社、銀行などの設立者です。彼女が活躍していた時代は女性の学問は許されていませんでした。その中で、なぜ、女は勉強しないの？と疑問に思いました。そこから、東京女学院という学校をつくります。女性はまだまだ差別されていた時代に女性が学問を学び夢を実現させていける、女性が社会に出る事ができる、そんなしくみを日本で造った先駆者でした。今の時代は女性が社会で活躍するの当たり前の話になっていますが、当時先駆けて時代を動かしていったのはクリスチャンだったのです。彼女は苦しいときにおじいさんから人はその物事によってなぜ、を考えることが大事だ。と教えられました。自分で主体的に考えて決断することをえらぶようになりました。皆さんは自分で決断していますか。食べるのも飲むのも神の栄光を現すためにしなさいと聖書にあります。お腹がすいたら食べる、眠いから寝る。では獣です。私たちは考えないなら獣と同じなのです。“使徒９：３～７”サウロがパウロになったときの話です。当時サウロはユダヤの最高議会、サンヘドリンの議員でした。若いときから偉い地位にありました。産まれたときからその勉強をして、先生と呼ばれる立場にありました。しかし、イエス・キリストが生まれて、自分たちが伝承してきた形や決まりじゃないことをいいはじめ、自分たちの教えの求めてきたことの真髄を言われてしまい、その結果彼らは、イエスを排除することにしました。彼らは若かったので、先祖から言われたことを真剣にやっていました。だからイエス様を信じる者たちを捕まえ、牢にいれ、裁判にかけ、殺したり、鞭うったりしました。なぜやっていたのか。それはわからず、そうだから、やっていたのです。私たちも同じようなことをやっていないでしょうか。自分が正義と思ってやっていること、正しいと思ってやっていること。だけど、理由もわからないでやっていることで､実が残せるのでしょうか。イエス様はサウロに“なぜあなたは私を迫害するのですか”と聞きました。サウロは“主よ”と答えました。そして､イエス様の僕になりました。イエス様になぜ？と聞かれ､イエス様の光を浴びて迫害する理由をきかれたとき答えは出せなかったのです。そして、一瞬にしてかれの人生はかわりました。迫害する者から、イエス様と３年間歩みを共にしてきたあの弟子たちと同じように生きる人となったのです。

①出なぜ、と問いかける

なぜあなたは存在し、なぜあなたは今ここにいて、なぜあなたは食べて、眠り、なぜあなたは服を着て、呼吸するのか。そんなことを考えたことはありますか。小さな子供はなぜ？なぜ？といろいろなことを考えます。イエス様は私たちにとって大切なことは少ない、いや、一つです。と言っています。私たちが目をむけなければいけないことに目を向けなければ、それ以外のことをやっても意味がありません。

あなたはなぜ存在し、あなたはなぜここに居るのでしょうか。問いかけてみてください。教会にきて、礼拝する理由はあなたの存在理由を知るためです。そして、何のために存在するかを知ったひとは、どんな艱難があってもあきらめません。広岡浅子は、イエス様に出会い自分の存在理由を知ったときに本当の女性になっていきます。そして、女性がどう生きるべきかを追求していきます。女も男も個々の役割は違いますが、その総称には意味があります。支えて育む人、責任とって導く人。この役割に基づいてそれぞれのアイデンティティがあります。だから、問いかけてほしいのです。考えなければ、世々にわたる祝福される道を歩むことができません。自分をコントロールすることはとても難しいです。言葉でさえ制御できません。しかし、存在意義を考えると、今言ってはいけないことがわかるようになります。なぜ､を考えれるようになれば､今まで､瞬間湯沸かし器のようだった人が、怒らなくなります。人は、自分の存在意義がわからないから、その感情をもって自分の存在を伝えようとするのです。ですから、自分に問いかけてください。私たちは、なぜを忘れて、目的を失うと、結果を見るようになります。結果を見るようになると結果はすぐに実らないので、あきらめてしまいます。結果はすぐにできることではありません。トーマス・カラエルという作家がいました。１０００ページにも及ぶ本を書き上げました。その原稿をジョン・シュチュワートにみせたところ、その女中が間違えて、暖炉で燃やしてしまったのです。カラエルは落ち込み、３日間暖炉の前で、ふさぎ込んでいると、その暖炉の先にレンガをひとつひとつ積み上げて、大きな教会を作り上げる姿をみつけました。それを見て彼は一日にして成らないことを感じました。そして、もう一度フランス革命を起こすために立ち上がることを決心し、前のものとは全く違う素晴らしいものができたのです。そして、その本から、文化革命が起きたのです。

②あなたの戦いは将来、実が残るため！！

“ヨハネ１６：３３”　あなたがたは世にあっては艱難があります。しかし、勇敢でありなさい。私はすでに世に勝ったのです。と、イエス様は言っています。だから､あなたの目の前の問題で､右往左往して､怒って､あきらめて､言ってはならないことをいって、壊してしまってはいけません。ベンジャミン・フランクリンはこう言います。「めったに起きないような大きな幸運で、人間が幸せになるようなことはほとんどない。幸せな日々の小さな前進が運んできてくれるのである。」と。彼は､実践主義の提唱者でした。彼は､謙譲の考えに目をむけました。ソクラテスも同じようなことを言っています。ソクラテスは“無知の知”の人です。自分が無知であることを知ること、これは謙遜のはじまりです。自分は無知であるからこあそ、考えてすべてのことを行わなければなりません。それはイエス様の生き様でした。（小事、日常茶飯事、または避けがたき出来事に平静を失うことなかれ）しっかり自分に問いかけていないと小さな出来事で平静を失ってしまいます。平静を失ってしまうと言ってはいけないことを言ってしまう。その言ってはならない発言があなたの周りに雑草のように生えて、良い種を蒔いても実を実らないようにしてしまうのです。神様と生きる決断をした私たちは、神様の恵みを無駄にするものを取らなければなりません。〝Ｉコリント１５：３０～３６“蒔くのなら死ななければなりません。もし戦いがあるのならば、あなたが死ぬためです。洗礼はそのためです。間違った価値観に死ななければなりません。相手も悪いものを蒔いたかもしれません。しかし、蒔かせたのはあなたです。もし、ベンジャミン・フランクリンの言葉を私たちが生きることができたなら、多くの実をむすぶことができるでしょう。彼はできい自分と向き合うことを諦めませんでした。だからこそ､自分に問い、彼の使命を果たせたのです。

③なぜ、その人は？

自分に問い、この戦いは実を実らせるためのものだと判断できたら、この３つ目ができます。その人はなぜそうなのかを感じることです。しかし、私たちはこれをしないで、この人は嫌な人だと判断してしまいます。子供はなぜ嘘をつくのでしょう。人を叩くのでしょう。それは親からされたことだからです。人はされたことしか人にできません。その人がなぜそうなったかを考えれば、その人を嫌いになったりしないし、原因がわかれば原因を取ろうとイエス様がしていることがわかり、その原因を取ろうとしたひとを知ることができます。知ることができれば、あなたの問題がとられたことに気付きます。いま、ここに居るのは、あなたの嫌な部分を一緒に乗り越えようとしたクリスチャンがいたからです。あなたが受けたことをあなたの周りで同じように苦しんでいる人に流していきましょう！私たちは愛を受けたのですから人を指さす前になぜその人がそうなのか考えなければなりません。そうでないとあなたがクリスチャンをやっている意味がありません。イエス様は右のほほを打たれたら左のほほを出しなさい、あなたの下着をとろうと訴える者には、上着をも取らせなさい。求めなさい求め続けなさい。叩きなさい叩き続けなさい。あきらめてはいけないといいました。イエス様が言われたように生きなければなりません。相手にそれが見出せなければ意味がありません。自分だけがいかに聖くなっても相手にその聖さが愛によって伝わらなければ意味がありません。今日から、なぜ？と立ち止まり自分と向き合い、神と向き合い、人と向き合う･･･。そのような「考える」人生へと変えられていきましょう！パウロのサンフェドリンの議員たちは､死体などには絶対手を触れませんでした。困っている人、けがをした人に触ったら汚れると教えられていたからです。しかし、愛されたサマリヤ人は追いはぎにあった困った人を見てかわいそうに思い介抱してあげました。私たちは自分に問いかけることをやめると律法的になります。人を裁く道具にしてしまいます。しかし自らに問いかけている人は、この中から罪のない人だけ石を投げろと言われれば石を置いて去るひとになり、最後に、私もあなたを罪に定めない。あなたを愛します。私のした愚かさを赦してくださいといえる、謙遜な人になれます。あなたの存在意義を考えてください。その意義を果たすためイエス様は十字架にかかり、あなたの身代わりになってくださいました。イエス様の死を無駄にしないでください。イエス様はあなたを愛し、実を実らせたくて、今のあなたがいます。存在理由を神様に聞いてください。

（要約者:澤口　明子）